

# ちばしや通信

Vol.15



画 くさびら八郎

## 【トピック】

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ♪ 「寄り添うケアのはじまり」     | ♪ つれづれなるままに   |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」    | ♪ 各種イベント案内    |
| ♪ 私の子育て奮闘記          | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 「はい、よりそいホットラインです」 | ♪ 法人からのお知らせ   |

## 寄り添うケアのはじまり

「川野さんごめんなさい②」

ごめんなさい、川野さん

ごめんなさい、奥さん

「もう身体がついて行きませんと」と、それから1か月ほどたつて奥さんから電話がありました。あれからお風呂はデイサービスで入れるようになり、奥さんもデイサービスに行くときの御主人の着替えの準備をするのが楽しみになっておられました。そんな中、一方で違う困りごとが出てきたのです。川野さんは夕方の散歩が日課でした。しかし、夕方、散歩に行つて一人で帰つてこれなくなる事が多くなってきたのです。奥さんが心配になりすぐに見つかる時は良かったのですが、どこを探しても見つからず近所の人にも頼まなければならぬ日もでてきました。それから間もなく、奥さんがとうとう体調を崩さ

れ、近所の老健施設のショートステイを利用することになりました。すると、あれだけ歌や踊りが大好きだった川野さんが全く歌われなくなつたのです。声も出なくなりました。笑顔も無くなりました。私達が夕方会いに行けば、とても小さな声で「戻いが、戻いが」とうつむきながら繰り返しばかりでした。私達は何故そうなつてしまったのか全く理由がわかりませんでした。老健施設のスタッフの方々も丁寧に関わつてくださつていました。しかし、川野さん以外に50人近くもお年寄りがいらつしやる中で限界もあつたのでしよう。今、例えば川野さんにとつては初めての場所であり、知らない人ばかり。歌を唄つても喜んで手拍子をしてくれる人もいません。不安で仕方なかったのかもしれない。寂しかつ

たのかもしれない。「このままではお父さんがダメになつてしまう」奥さんの体調はまだ完全には戻つてませんが、予定の2週間を1週間で切り上げ自宅に戻られたのです。私達は自宅に川野さんが帰ることができて、また元氣を取り戻してくれると喜んでいましたが、全くそのようにはなりませんでした。自宅に戻られた川野さんはこれまでになかつた使いじりや便失禁が頻回に起こるようになりました。奥さんの介護負担もピークに達してしまいました。私達は、「何かできることはないか？奥さんが休む時間を作りたい」と思い役場に「川野さんにデイサービスを週1回ではなく、2回もしくは3回使つてもらえるようにしたい。時間も夕方遅くまで利用してもらいたい」と許可を貰いにいきましたが却下です。役場の担当者の方も検討をしてくださいましたが、「他にもデイサービスに行

きたい人が待つている。公費でやっているのだから一人だけ特別扱いはできない」というのが許可できない理由でした。私達は悩みました。役場は許可しないけどこのままでは奥さんがまた倒れてしまうと思ひ、役場の指導に反して週2回御利用してもらふことにしました。しかし、これはその場しのぎの対応にすぎず、奥さんはまた体調を崩されてしまったのです。そして、前回、老健施設で川野さんが状態が悪くなったので、今度は町内の特別養護老人ホームのショートステイを利用することになりました。期間は決めてません。それから1週間ぐらい経つたでしょうか、奥さんからまた連絡が入りました。「園を飛び出して近くの川沿いで転んで怪我をしていたそうです」私達は、すぐに奥さんのところに駆けつけ、経過を改めてお聞きし「もう一度、川野さんに帰ってきてもらいましょう」と言いました。しかし、奥さんはすつ

かり疲れ切った表情で「もう限界です。家には連れて帰れませ  
ん。お父さんと一緒に居たい  
けど、これ以上沢山の人達に迷  
惑をかけられません」と涙を浮  
かべながらおっしやられました。

それから間もなく、自宅から  
1時間ほど離れた町外の特別養  
護老人ホームに川野さんは入所  
されました。町内の施設は待機  
者がたくさんおられすぐには入  
所出来ないということですが、こ  
れは入れる所ということでは、とて  
も遠い場所になってしまったの  
です。当然、川野さんにとって  
は知らない人ばかり。歌うこと  
も無くなり、言葉も出なくなり  
ました。ご飯も食べなくなり、  
歩くこともできなくなりまし  
た。入所されて1か月、川野さ  
んは亡くなられました。

川野さんと出会って10カ月目  
の出来事でした。私は何もでき  
なかったのです。川野さんに対  
して、奥さんに対して、「ごめ  
んなさい」という言葉しか出て

きません。川野さんはもつと楽  
しく過ごしたかった。奥さんも  
川野さんともっと一緒に居た  
かった。でも私はその願いを叶  
えることはできませんでした。  
介護の仕事について初めて味  
わった大ショックです。自分の  
力の無さを痛感した出来事でし  
た。

ありがとうございます！川野さん

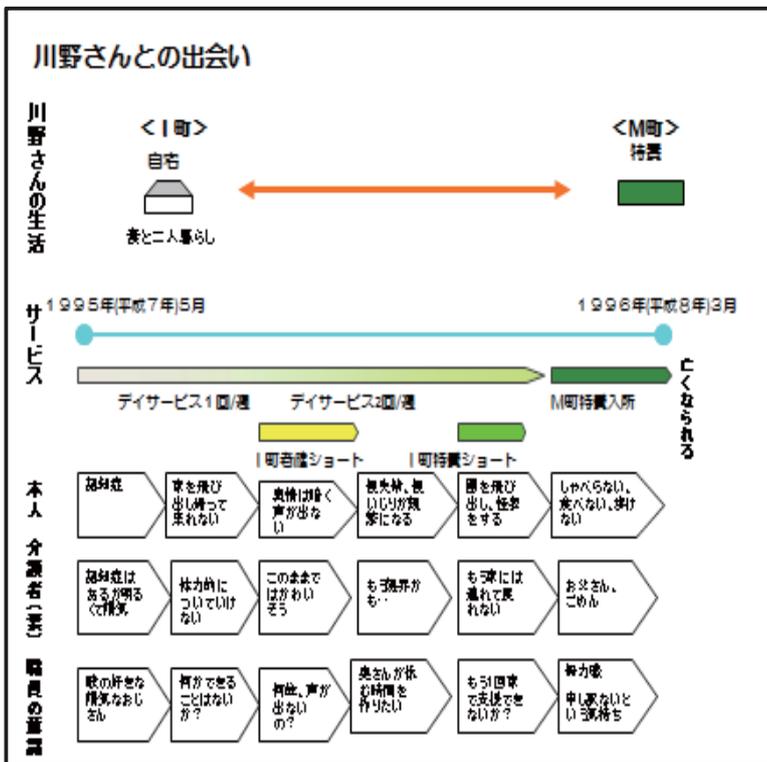
川野さんが亡くなられてから  
2か月後、平成8年5月、理事  
長の理解を得て宅老所を始めま  
した。川野さんと過ごした10カ  
月。生き様を通して教えてくだ  
さったこと、同じ失敗を繰り返  
したらいけないと、福岡の宅老  
所よりあいを見学に行き、理事  
長の知人の空き家をお借りしま  
した。大集団ではなく、認知症  
の方とじっくり、ゆっくり関わ  
りたい。普通の暮らしを継続でき  
る環境を作りたい、そんな思い  
で始めました。御本人、ご家族  
の思いにその都度、きちんと向

き合い、一緒に喜んだり、時に  
は一緒に悩んだりしながらお付  
き合いしていく、そのプロセス  
の大切さを教えてくださったの  
が、私が初めて出会った認知症  
の川野さんです。今の私の介護  
の仕事はこの出来事がスタート  
です。

川野さん、有難うございました。  
絶対にあなたのことは忘れ  
ません。

黒岩尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全くなくて進路指導の先  
生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。  
しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費  
の安い福岡大学商学部を受験。卒業後、東  
京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか  
使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。  
1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。  
多くの方々にご飯を食べさせて貰いながら生  
きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり  
帰鹿。リハビリの甲斐あってか、無かれたか1  
年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の  
仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。  
平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべ  
という小さな小さな事業所を開設。細々とやっ  
てます。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北  
海道幌加内町にも関わる。



## 心地よい関係性のバランス

## 第3回 関係性のバランスポイント

ふと気がつくくと、最近障害者の友だちがいなくなってしまう。もちろん最初から、そんなにたくさん障害者の友だちがい

たわけではないが、学生時代は福祉学科だったせいかわ、聞こえない後輩、見えない先輩、統合失調症のクラスメートがいたりした。職場に脳性まひの同僚がいたこともあった。ことさら、気を遣うでもなく、でも必要なときは手を貸す、そんな知人、友人が自然と周りにいたものだ。

しかし、知的障害の現場に入って感じたのは、知的障害者と友だちになるのが案外難しいということだ。正直に言うとう学生時代、実習先で出会った統合失調症（当時は精神分裂病と呼ばれていた）を患う人に胸がキュンとしたこともあれば、音楽仲間だった全盲の人に兄のよ

うな深い親愛の情を感じていたこともある。気が合えば、いくらかの困難はあるにせよ、恋愛も結婚もありだと感じていた。一方で知的障害者の場合はどうだろう。これが、なかなか難しい。長いこと知的障害者支援の現場にいますと、確かに友情に近い感情を持つことはある。が、少なくとも恋愛感情をもった相手は一人もいない。友情に近いと表現したのは、友情なのかどうか自信がないのだ。友情や恋愛感情をはぐくむのには、文化

の共有が欠かせないような気がする。そういう意味で、ある文化を深く共有できれば、その人が「見えない世界」をもっていることは必ずしも致命的な問題にはならない。しかし、努力しなければ文化を共有できない相手と友情や恋愛感情をはぐくむのは非常に難しい。「アンパン

マンを見ることだけが唯一の楽しみ」という人と恋に落ちることは、私には現実的でないように思える。暮らす世界の文化の違いは、友情や愛情をはぐくむのに時として大きな障壁になる。障害者の友だちが減ったのはそのせいだと思っていた。知的障害者とはばかり関わっているからだ。

しかし、なんだか違うような気もする。知的障害のある人たちと毎月、夜の街に繰り出すようになって10年になる。居酒屋やイタリアンレストラン、カラオケボックスに花火大会。これももちろん、全部有料サービス、ぴっころの仕の一環だ。スタッフの経費も全部利用者が負担し、私たちはお客様が楽しめる時間を提供する。何の疑問もなく続けてきたわけではないが、最近時折ふと嫌な気分になる。利用者が希望する。スタッフがそれに応える。当たり前のこの関係性が、どうもよそよそしく感じてしまう。夜遊びなん

か全くしたくないような気分での夜の街へ行き、お客様を喜ばせて、お金をもらう。仕事だからと割り切って10年も続けてきたが、何か違和感が抑えられない。私が遊びたいときに、気の合う（たまたま障害のある）人と、楽しい時間を過ごすことが、この10年の間に全くなくなってしまうのだ。そう考えると、確かにかつては知的障害の友人が私にもいた。

施設職員時代、自分の休みの日に利用者で個人的に出掛けることがあった。仕事を離れ、気の向くままに遊びに出掛けた。確かに同じ文化を完全に共有できたわけではないが、同じ時間を共有し、何度も楽しい気分になれた。ところが今はいつでも、料金や、時間や、支援目的や、いろいろなものに縛られている。24時間の契約関係が、いつのまにかサービス仕様の振る舞いを体に染み付けさせ、その結果大切な何かを失ってしまった。障害者の友だちが減ったのでは

なく、私の気持ちが変わったのだ。

利用者を対象者ではなくお客様と考えることで一方的な関係性が改善されたのは事実。しかし、この方向性は一歩踏み誤ると同じ過ちにたどり着く。障害者と健常者がまったく違う世界で生きることへの疑問は、お客様と従業員がやはり目に見えないバリアで分け隔てられることで再燃する。心そのままに見下すか、心にもなく持ち上げるかの軸には、ちょうどよいバランスポイントは存在しない。自分と違う文化をもつ人の価値を認め、人として尊重し合う関係性の軸にだけ、心地よい場所が存在する。サービスとは言え、福祉の仕事とはそういうものなのだと思う。

※この原稿は、Juntos (フントス) C.L.C 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

## 大友愛美 (おおともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな...と感じている今日この頃です。

### 『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン

〜1,600円+税 絶賛販売中〜

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



## 私の子育て奮闘記

### 「試行錯誤の日々」

学校生活をしていく中で、家では何でもできる長男でも、学校では様々な面が他の子とは違うということを実感した。けれども、他の子みたいにやりたい!という本人の思いもあってか、どんどんいろんなことが出来るようになっていった。

身のまわりのことは、そうして身につけていったのだが、どうしても数の合成の理解が難しいようだった。たし算も引き算も説明しても、なかなか理解につながらず、これでは、みんなと同じクラスでやっていくのが、難しいだろうとも思った。けれども、

本人のやる気は半端無く、毎日学ぶことが楽しそうでもあった。夏休みには、あれこれ、いろんな形で足し算の練習をしてみる。Ipadの

アプリでやってみたり、たし算の歌を歌ってみたり、製氷皿を使って視覚的に理解してみたり等、思いつくあらゆる方法をやってみた。けれども、夏休み最終日。まだ、たし算や引き算は間違いだらけでわからないようだった。しかし、その2週間後くらいに、突然たし算や引き算がスラスラ出来るようになっていた。今思えば『ため期』だったのかなとも思う。何がよかったのかはわからないが、何かが本人の中で、結びついたのだ。

本人の状態を見ながら、今までのやり方等のこだわりを捨て、必要な情報を必要ときに、伝えていくこと、そしてそれをあきらめず続けていくことが、大切なのではないかと気付かされた出来事だった。(おとめ)

発達の違いを持つ2児の母。16年続けた社会福祉の仕事を経て、家庭で子どもの力を伸ばすこと、地域で生きること考えながら日々奮闘中

# 『はい、よりそいホットラインです』

その一 よりそいホットラインとは…

よりそいホットライン（以下よりそいHL）は、24時間年中無休、無料で日本全国どこからでも、つながる『なんでも電話相談』です。厚生労働省や復興庁の補助を受け実施しています。

2011年10月に、東日本大震災被災3県の被災者を対象にスタート。翌2012年3月11日、全国規模の「なんでも電話相談」へと発展しました。

きっかけ・入口は、東日本大震災の被災者支援でしたが、同じ頃（2011年頃）、生活困窮と自殺対策を柱にした生活支援・ワンストップサービスの一環として同様のなんでも電話相談の構想もあり、それが加わり現在の事業になりました

全国どこからでもつながる「よりそいHL」は、実はなかなか電話がつかないんで

す。よりそいHLには、1日に数万件の電話がかかってきます。日本中で電話をうけていますが、それでも電話がつかない、もしくはつながりません。それだけに、悩んでいる人が多いということかもしれません。

でも、悩んでいる！困っている！という方には、ぜひあきらめずに電話をしてほしいと思っています。よりそいHLは、匿名でかけられます。だから、相談しづらい相談も、どこに相談に行ったら良いかわからない相談も、一人で相談機関に行くのは不安という方も、モヤモヤするけど何に困っているか自分でもよく分からないという方も、まずは電話をしてみてください。一緒に考えましょう。

よりそいHLは、  
0120・279・338  
(つなぐささえる)

にかけるとガイダンスが流れます。1番暮らしの中で困っていること、気持ちや悩みを聞いてほしい方、2番外国語による相談、3番性暴力、DVなど女性の相談、4番性別や同性愛などに関わる相談、5番自殺を考えるほど悩んでいる方、8番被災者の方で困っている方です。以上、6つの番号の中から、一つを選んでください。

次回以降、よりそいにどんな相談がきて、よりそいがどんなことができるのかをご紹介します。いききたいと思います。

一般社団法人  
ひと・くらしサポートネットちば  
よりそいホットライン担当  
石井 陽子



自分の性別に違和感がある

さびしい。生きていくのがつらい

多額の借金をかかえてしまった

家族がバラバラで、つらい

住む家も食べるものもない

誰なら私に気づいてくれるの？

夫の暴力を、誰にも相談できない

理由もなく、解雇された

●どんな方のどんな悩みでも受け付けます。  
生活 / 仕事 / 住居 / 自殺念慮 / 心 / 家庭 / お金 / 病気 / 障がい / 犯罪 / 性 / DV・性暴力 / 子ども / 法律、法的手続き / 行政、その他の諸手続き / 教育 / 人間関係 / 外国籍 / 被災地・原発 / その他

## つれづれなるままに

今年は元旦から穏やかな天候が続き、まるで春を思わせる様な日々であったが、これから大寒を迎え一年で一番寒い時期となり、愛犬（ハナコ）との朝晩の散歩で一番堪える季節である。それでも、お日様が昇り始める7時頃に出発でき、お日様の一番元気な時間に太陽の光を十分に浴びることが出来る。これは大変健康に良いことではないかと勝手に思っている（実際に良いのではないか？）。今まで、長い間犬を飼っているが、今のワンの様に頑固なのは初めてで散歩コースはワンの決める。

最初の頃は、いろいろな道を歩いて、帰って来るのに1時間以上かかることもあったが、最近は大体8パターン位で、朝も夜も概ね1時間以内に収まっている。もう8年も一緒に暮らしているが、家を出発してからの様な思考プロセスでコース

を決めるのか、本犬に聞いて見るとののだが答えてくれる訳がない。ただ、連れられて行くところの角を曲がったから、今日はこのコースかと大体分かるので、帰宅も何時位には帰れるなど検討がつく。他人からは羨けが出来ていないとか、主従がひっくり返っているとか、いろいろな言われるが、自分が飼い主だと思っているのも、人に何を言われても気にしないことにしている（そもそもアニマル・セラピーになっているので、ワンにお世話になっっている部分もある）。

しかし、最近膝の痛みなど、下肢筋力の衰えを感じることもあるので、歩くために使う筋肉と、立ったり座ったりする筋肉とは別物であろうと思ひ、今年で、年の始めに何かをしようとか考えることはしなかったが、今年、痛い部分はしっかり治し、基本的に足・腰を鍛える運動（ストレッチ？）を散歩以外にしなければならぬと思ひている。

さて、世界一の長寿国日本の平均寿命は、男性が80.5歳、女性が86.8歳になったそうである。日本人の努力や技術、上下水道等のインフラ整備や予防医学、医療技術の進歩には感謝をしなければならぬ。

この平均寿命に代わって、世界保健機関（WHO）は新たに「健康寿命」という概念を提唱した。健康寿命とは、寿命の中でどれだけ健康な期間があるのか、という意味だそうで、具体的には介護を受けたり、寝たきりになったりせずに、自分だけで日常生活を送れる期間のことである。

厚生労働省は健康寿命について、男性71.2歳、女性74.2歳だと公表している。ということになると、自分は2月で67歳になるので、健康な日常生活を送れる期間はなんと4年間しか残されていないという事になる。それなら仕事をしている場合ではないかと思ひ、自分に課しているノルマ、



1日、現場2か所回りを目標に、今年愛犬と泊まれる温泉宿を探して、近隣の温泉でも楽しみたいと思っている。現場の皆さんが生き生きと働いている姿からも元気をもらっていることも感謝です。

（総合施設長 齊藤 操）

きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこ、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：2月8日（月） 2月22日（月）</p> <p>※興味のある方は、連絡ください。 鶴嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：2月3日（水） 2月17日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：2月25日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代）</p> <p>主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

## ときがね・街かど福祉塾

## コミュニティケアワーカー講座

2011年2月より休止していた、「ときがね・街かど福祉塾」を4年半ぶりに再開いたしました。

今回のテーマは、地域共生ケアです。高齢者ケアを軸として、多様な人達との関わりから地域共生ケアを考える会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

（問合せ先：ちば地域生活支援舎  
Tel:0475-53-3630）

《第5回》  
「人がひとを支えるとは」  
日時：平成28年2月3日（水）  
17:30～20:30  
会場：東金市中央公民館・第3会議室  
講師：大友愛美  
（ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川 副理事長）  
伊藤英樹（井戸端介護・代表）

《第6回》  
「地域を支える介護とは」  
日時：平成28年2月19日（金）  
17:30～20:30  
会場：東金市商工会館・4階中ホール  
講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）  
安西順子（ひぐらしのいえ・代表）

主催：NPO法人ちば地域密着ケア協議会  
会場：千葉県経営者会館・研修室  
定員：30名  
参加費：無料  
申込方法：お電話でお問合せください。  
連絡先：043-244-2601 / 大石

平成28年2月24日（水）

《第8回》 9:30～12:30  
「地域連絡会と自治体の協働の取り組み」  
講師：黒岩尚文（浪漫・代表）

《第9回》 13:30～16:30  
「地域密着型サービスのあるべき姿」  
講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）



# ときがね な ひととき

明けましておめでとうござい  
ます。みなさんお節料理は食べ  
ましたか？

鴛嶺の家ではお節料理は食べ  
ていませんが、毎年恒例になり  
つつある元旦マクドナルドに  
行ってきました。

鴛嶺の家のお母さんたちが作  
るごはんも美味しいですが、た  
まにはみんなでマクドナルドに  
行くのも利用者さんの気分転換  
になるのかなと感じています。

マクドナルドではみなさんそ  
れぞれ好きなものを注文されて

明けまして、おめでとうございます。  
本年もよろしくお祈りします。



食べていました。一番人気はグ  
ラタンコロッケバーガーとポテ  
トのセットです。柔らかいので  
高齢の方でも食べやすいと思  
います。

スタッフの中にはメガマック  
という巨大なハンバーガーを食  
べる人もいました。：そう、私  
です。（笑）

新年を迎えて1ヶ月が過ぎよ  
うとしています。今後もたま  
には利用者さんと出かける機会  
を作りたいと思います。

鴛嶺の家児童に小学校6年生  
の男の子が仲間入りしました。  
笑顔がとても可愛い子なので  
すが、入ってきたばかりという  
ことでまだ慣れておらず、おや  
つの食事介助の際は力が入って  
しまい渋い顔になってしまうこ  
とがよくあります。

普段DVなどを見てもあま  
り反応がないのですが、教育番  
組をつけると声を出したり笑顔  
になります。今まで走り回って  
いた子や違う遊びをしていた  
子、眠そうにしていた子もテレ  
ビの前に集まり皆で食い入るよ  
うにじーっと見たり、歌ったり  
踊ったりしています。時々キャ  
ラクターが怖いのか、消しに行  
く子もいますが皆が大好きな番  
組のようです。また、スタッフ  
も一緒に見ているのでつい口ず  
さんでしまうことも…。  
教育番組は惹かれるものがあ  
るんだなあと改めて実感しまし  
た。

冬休みに入り、Xmas・大  
掃除・しめ縄飾り・初詣、今年  
も子ども達と賑やかに新年を迎  
えました。Xmasでは鴛嶺  
の家を利用されているお姉さん  
と一緒に、おやつパーティーを  
しました。サンタさんも登場し  
楽しいひとときでした。

大掃除では「面倒くさいな」と  
言っていたM君、窓いっぱい  
に掃除用のスプレーでスタッ  
フがM君の名前を書いたところ  
仲良しのA君が「俺も書く  
〜」と書き、そこからお互いの  
名前を消し合い、他の子ども達  
も加わりあつという間に終わっ  
てしまいました。「ありがとう」と  
と伝えると、空になったスプ  
レー缶を片づけながら「また  
やってやるよ、俺たちに任せな  
」と一言。おかげで2Fの窓は  
ピカピカになりました。

## サポートセンタースピリッツ

先日、移動支援でダウン症の方と電車に乗っている際、ちよっぴりうれしい出来事がありました。電車の席がすべて埋まっているというような状況ではなかったのですが、二人隣同士で座れる様な席は空いておらず、とりあえず一緒にでかけた方に座っていただき、私はその方の前に立っていました。電車に揺られ一駅通過する頃に一人のご年配の女性が「二つ空いたのでどうぞ。」と声をかけて下さいました。私は「大丈夫ですよ。」と一度お断りしたのですが、「いいから、いいから」と席を快く譲って下さいました。その方のおかげで一緒にでかけた方と隣同士で座ることができました。そのご年配の女性は、反対側の席から私たちの様子を見ていて、わざわざ席を移動して二つ席をあくようにして下さいました。その心遣い、ちよっぴりうれしくなりまし

た。席を譲って下さった方、ありがとうございました。

## 街かど福祉相談室

るるとに相談に来る方で、児童の場合、本人もですが兄弟姉妹と一緒に話をしていても子ども達さんと話をしていても子ども達は飽きてしまいます。るるとでは退屈しないようおもちゃを用意してあるのですが、ぽけつとや鶴嶺の家のように豊富にあるわけではありません。ミニカー、ぬいぐるみ、パズル：どれも好きかなあと色々遊ぶ中で、すごい確率でヒットするのが、風船です。しかし、子ども達と遊んでいる大人の方が夢中になつてしまい、親御さんとの話が終わってもひそかに『もつと遊びたかったな』などと思つてしまいます。高齢者施設でも、風船バレーは盛り上がりますし（やはり職員がエキサイトしています）、改めて風船のごさを感じします。ゲームやメ

ダルなどのおもちゃも良いですが、昔からあるおもちゃも楽しく遊んでほしいと思います。

## ハンドワーク

年末年始はいかがお過ごしでしたか？  
ハンドでは12月6日のチャレンジフェスタや、ありさと共同での12月12日の楽市マーケットへの出店で販売の1年を締めくくりました。  
チャレンジフェスタでは、お菓子があつという間に完売しました。  
秋口からの、イベント販売ラッシュを頑張ったねぎらいで12月28日の忘年会はカラオケに行きました。  
「歌いたい曲を考えてきて」と伝えると、送迎車の中では「私○○歌う」等々、楽しそうにアフレコのお話。当日は決めた曲を歌い終わるとその後から思いついていったように曲を追加し始

め、みなさんの知らなかった意外な一面を発見することが出来ました。

## かばの家

12月のクリスマスに向けてチョコカップケーキを作りました。チョコカップケーキの上には雪だるまを載せて可愛く仕上げ、利用者さんたちと一緒に販売へ行ってきました。

28日は大掃除をしました。普段使っている作業場はデッキブラシでゴシゴシとブラッシングをする人、バケツに水を入れて流す人などに分かれて行いました。その他に休憩室、玄関、外回りなども皆で協力しきれいに掃除しました。

昨年は大変お世話になりました。今年も引き続き皆でパン作りを頑張りたいと思いますので、よろしくお願致します。

12月の末に毎年恒例の忘年会をしました。

メンバーの様子ですが、やはりカラオケ大好きな人が揃っていきまして、大盛り上がりでした。ありさのメンバーは年代も近い人が多いので、一緒に歌い踊りな状態。トップバッターはMさん。23歳ながら日舞を習っているのので、坂本冬美さんの『うりずんの頃』と渋い歌から入りました。

次はKさん、FIELD OF VIEWの『突然』で懐かしく歌い、Aさんは『アナ雪』、TさんはEXILEの『もつと強く』。TさんはATUSSIが大好きなんです。Hさんは作詞をしながら『ハナミズキ』を歌い、Oさんは低音を効かせて『宇宙戦艦ヤマト』を。Kさんは名曲、スピッツの『チェリー』。KさんはJ-POPをたくさん知っていて最後は大好きなコブクロの『薔』を歌って

1週。3週ほどそれぞれ好きに歌い、後半は『恋するフォーチュンクッキー』や『Choco Choco TRAIN』等で盛り上がり、Hさんが『ひゆるりを歌いたい!!』と最後は『越冬つばめ』で締めました。1年お疲れさまでした。皆さん、今年もどうぞよろしくお願いします。

### 五根の家

#### ◆小規模多機能ホーム

昨年は暖冬と言われましたが、年が迫るにつれ寒さも厳しくなりましたね。

クリスマスには、クリスマスソングを歌ったり、ケーキを召し上がられました。お飲み物を用意すると、女性が男性に注ぐ姿も見られ楽しく過ごすことが出来ました。皆さんの笑顔を見るとスタッフの心も和みます。

年も明け、こたつの上での落花生の殻むきも終わり、今はの

んびりと過ごされています。こたつソファに座り足を伸ばす方や、この方が楽だと、横になり足を伸ばす方もいらっしやうて、自宅で過ごすような雰囲気になりました。こたつを囲み、年末やお正月のお話をされていました。女性の方は、年の瀬は忙しく、お掃除をしたり、おせち料理を作ったりしていたそうです。おせちは今のようを買うのではなく、手作りの物を用意したと話していました。

昨年はインフルエンザにかかの方もおらず、良いお正月を迎えることが出来ました。今年も健康な日々を送って頂けるようスタッフ一同精進していきたいと思います。

#### ◆グループホーム

年末年始に、利用者さんが少しでも家族と一緒に過ごせる時間を持っていただきたいの願いを込めて、ご家族にご無理のないようご相談させて頂きました。

つい先日の12月25日、Iさん

の奥様のご希望により食事会が東金市のエストーレホテルにて実現されました。一時間の間でしたが、ランチをしながら思い出話等され、よくお二人で海外旅行や国内の温泉、食事に行かれたとの事。

Iさんも思い出されたのか、「そうね」と目を合わせ奥様に微笑みかける優しい顔をしていました。奥様の心配もよそに、「こんなに楽しくお食事が出れるのならまた是非機会をもうけたい」と、おっしゃって頂き楽しくランチをすることが出来ました。

利用者さんのAさんは、天ぷら蕎麦が大好きなので年越し蕎麦には間に合いませんが、お正月に家族と一緒に天ぷら蕎麦を食べに行きましょう、と約束して下さいました。

私たちスタッフ始め、ご家族や地域の皆様にご協力を頂き、利用者さん全員が幸せに過ごせますよう努力して参りたいと思っております。

営業：午前10時～午後8時

場所：東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、本会ま

で相談ください。

(月)金/午前10時～午後5時)



《車両寄贈の報告》

12月11日、中山馬主協会様か

ら「ニッサン・セレナ」(新車)

1台を、就労継続支援B型事業

所ハンドワークに寄贈頂きまし

た。

ハンドワーク(ありさ・かば

の家含む)3事業所のメンバー

の送迎や販売活動等で使用して

います。

大事に使っていききたいと思っ

ます。



《賛助会員の募集》

私たちの活動を支えてくださ

る賛助会員を募集しています。

賛助会費は、一口3,000

円です。賛助会員の皆様には、

毎月19日に情報誌をお届けしま

す。また、当法人の各種イベン

トや企画のご案内もいたしま

す。何卒よろしくお願いいたし

ます。

詳しくは、総務・企画課まで

ご連絡ください。

(0475-53-3630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身

につけたスキル、体力等、自分

らしさを生かしたボランティア

活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得

られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り

等、人に関わる活動に興味のあ

る方は、ぜひ当法人にご連絡く

ださい。

(0475-53-3630)

編集者のつぶやき

2016年の干支は「申」。サルには、頭の回転が早く、機敏であるという印象がある。そう考えると、今年は、「決してあきらめずに、あらゆる角度から試してみようという雰囲気にあふれる活動の年！」とも言える。さらに一步前へ！(Jerry)

今年のお正月はとても暖かく感じ、例年の冬より過ごしやすかったと思っておりましたが、成人の日を過ぎ急に冷え込んできました。寒さは苦手ではありませんが、急な温度変化についていくのは難しいものです。去年は周りでインフルエンザにかかったと聞けなかったのでこのまま感染症にかからず皆で穏やかに冬を越せるといいなと思いました。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.15)

発行日：2016年1月19日  
発行元：ちば地域生活支援舎  
編集責任者：宮下・太齋  
連絡先：0475-53-3630